

詩と詩論

「笛」300号を前に

井崎外枝子

1961年、濱口國雄によって創刊された「笛」は今年で六十周年。現在300号が目前である。その足取りを辿ると、創刊から十年後の1971年に200号。そして2010年の250号ではわざわざ記念特集を組んでいる。そのころわたしはまだ事務局を預かっていたが、300号ははるか彼方のことであった。それがとうとうという思いと、なにかいい企画はできないものか？この先は？と頭を巡らせている。

「笛」への入会は24号から。その頃は月刊だったから、六十年近くも在籍したことになる。近年は同人の数も減り高齢化もあるが、何が一番変わったかといえば、同人同士の交流、話し合いの機会が減り、刺激が薄らいできたことであろう。それがコロナ禍により一段と進み、いまや原稿を送るだけということにも。

同人誌の休刊、終刊もポツポツと聞かれるこの頃、得てして何事も高齢化のせいとされがちだが、詩を書くということは極めて肉面的な行為。高齢により編集業務ができないという理由なら理解できるが、休刊にはそれなりの要因があるのでは？「笛」も八十歳以上が半数に近い。高齢化やコロナだけを理由にすると本当のところを見失い、折角の居場所を失いかねない。心しなければと思う。

【詩の回顧】

▼五月の風に吹かれて大阪文学学校の二〇二一春期生募集中の書面が届く。一九五四年日本文学学校として東京で創立。後に小野十三郎が発起人となり大阪に事務局を置く。校長は二〇〇一年から長谷川龍生、二〇一四年から細見和之氏が受け継ぐ。在籍者数の累計は一万五千人を優に超える。多くの作家や詩人を輩出していることでも知られている。

▼一頁目には「中塚鞠子氏の詩同人誌評に貴誌誌が取り上げられています。どうぞお読み下さい」とある。よく見ると石川詩人会の「第八回かなざわ現代詩コンクール作品集」について触れている。（しかしながらこのコンクールの存在を初めて知った）ともあり、課題詩部門は「新たな日常―コロナウイルス禍を踏まえて」と、自由題部門に分かれていること、受賞作品は全国各地からの応募でかなりの力作揃いであると、とてもうれしいお言葉を戴いた。

▼石川詩人会員酒井恵三は、『文芸思潮』誌のエッセイ賞公募に応じ、三回目の入選を果たした。

▼富山県出身の瀧口修造はシュルレアリスム運動を日本に招来した先駆者の一人で、戦後美術をもリードした美術評論家。その仕事を慕い、見直そうとする瀧口修造研究会が、命日七月一日付で会誌「橄欖」第五号を刊行した（横浜市の土淵信彦・富山県詩人協会員尾山景子共同編集）。石川詩人会の霧山深も毎号同誌に寄稿。今回は瀧口の「寸秒夢」に因んで「わが寸秒夢」を書いている。

▼大阪文学学校の掲載はもう一つあって米村晋さんの「カルーセル・エルドラド」時を超えて（「笛」259号）豊島園の回転木馬の詩である。閉園を背景に最古の世界機械遺産に認定された回転木馬の制作者ヒューゴ・ハッセイに思いを馳せる。飼っていた仔

馬を亡くした一人娘アンのために「黄金郷」が作られ、閉園のその時、悠久の時を超えて幽かなアンの声を聞く、消略の妙が味わえる。

理事会概況（2021年3月以降）

- 3月6日
コンクール・アンソロジー事業継続を確認
2020年度総会を書面議決とすること
- 4月3日
アンソロジー刊行と発送時期について
総会資料・案内の送付、会報について
- 5月1日
総会資料・案内の送付、会報・ホームページについて、コンクール募集要項の確認
- 6月19日
総会書面決議を受けてコンクール・講演会・合評会・会報ほか諸事業について
- 7月3日
講演会準備・会報の校了 その他

事務局だより

【消息】会員の近況や取り組みなど情報をお寄せください。
（事務局に寄せられた項目のみ掲載いたします）

- おつぼ栄 住所変更
〒920-0341
金沢市寺中町団地二一七

【あとがき】

▽年一回の刊行ペースとなるこの「会報」はたぶん今後の発行時期が年度末の総会後になるだろう。そこで主に一年分の事業・活動を回顧し記録することになる。リアルタイムの会の動向は、ぜひホームページでご覧ください。

（つ）

石川詩人会会報50号 発行者／石川詩人会

いしかわ詩人

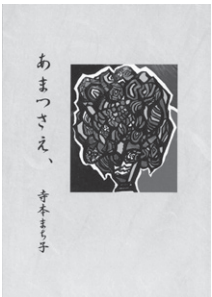
石川詩人会会報50号 2021（令和3）年7月

鑑賞詩 1

沈黙 II

寺本まち子

誰か
わたしを呼んだか？
外へ出ようとして
ふたたび胸底へ
したたり落ちてゆく
言葉のしずく
かすかな反響音を
わたしの耳は
聞いた気がする
言葉はまだ迷っている
何処へ向かうべきかを
わたしは 土壌
時間という種を
わたしに植えつけよ
わたしは受けとる
浅い場所では 浅く
深い場所では 深く



【解説】寺本まち子 石川詩人会会員 詩人会議かなざわ「独標」同人。詩集「あまつさえ」二〇二〇年所収の一篇。ここで抽象的に時間と呼ぶものは、いつかどこかの語り難い内密な経験だろう。（編集部）

山田隆昭氏の文芸講演会の開催も決定

二〇二二年度事業計画等を書面決議で承認

新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せない中、例年三月に開催の総会については、会員の安全を考慮して、前年同様、書面決議による実施とし、二〇二〇年度事業報告及び決算報告、並びに二〇二二年度事業計画及び予算案の全四議案が会員の賛成多数により承認された。

二〇二〇年度事業報告では、文芸講演会や詩の研究会の開催が中止となったほか、例年七月応募開始の「かなざわ現代詩コンクール」が一月遅れての実施となるなど、コロナ禍の影響により多くの事業が変更を余儀なくされた一方、金沢市のコロナ禍により文化事業の継続が困難な状態を緩和するための支援施策に、当会からホームページ新設のための奨励金の交付申請を行ったところ、申請が受理され、当会公式ホームページが新設の運びとなったことなどが報告された。

二〇二二年度事業計画では、延期・中止となっていた日本現代詩人会理事長・山田隆昭氏の文芸講演会の開催や「いしかわ詩人十二集」の合評会、恒例の現代詩コンクールの実施、先述の当会ホームページによる活動案内や会員作品の公開等の幅広い活用、今号の発行で五〇号を迎える会報「いしかわ詩人」を特集号とするなどが報告された。

また、書面決議に合わせて会員から募った主な意見として、会員外にも開かれたホームページの活用とすることの提案や会員相互の詩作の研鑽のための勉強会等の開催の要望などが寄せられた。

新型コロナウイルス感染予防の自粛が求められる中、月一回ペースで実施している理事会では「ソーシャルディスタンスの中の交流（議案審議）となる」一方あり方としては「会員と共にあること。問題を共有すること。学習と刷新。愉しくあること」を念頭に今年度をスタートさせたところである。

これからのとらえかた

理事会は毎月第一土曜日に開催します

▼石川詩人会会報五〇号の発行

「いしかわ詩人」五〇号記念 七月

▼文芸講演会及びアンソロジー

「いしかわ詩人十二集」合評会
日時 七月二四日（土）一三時三〇～一六時三〇分
会場 金沢市中央公民館長町館
第一部 文芸講演会
講師 山田隆昭氏
演題 「詩的風土と詩の手法を語る」
―読者に届く現代詩を求めて―
第二部 アンソロジー「いしかわ詩人十二集」
合評会

コロナ禍の収束状況にもよりますが、会員多数のご参加をお願いします。

▼第九回かなざわ現代詩コンクール

●募集期間 八月一日～九月三〇日
●課題部門「テーマ」食（2頁参照）
●会員多数の応募を期待します。

▼詩の研究会 二月

二〇二〇年と二〇二一年度中に発行になった会員の最新刊を朗読と共に語り合います。

▼石川詩人会公式ホームページ開設（7頁参照）

事務局／〒920-0027 金沢市駅西新町二丁目一〇一九向川方
TEL090-1317-21130

第八回 かなざわ 現代詩コンクール

最優秀賞は井本一郎氏「未踏の朝」に

石川詩人会主催の現代詩コンクール(通算十八回目)、今回の課題詩部門の応募テーマは「新たな日常―コロナウイルス禍をふまえて」。災厄の影響もあり、一ヶ月遅れの二〇二〇年八月から九月末まで全国に応募を呼びかけたところ、課題部門二十八篇、自由部門八篇、合計三十六篇の応募があった。

砂川公子・米村晋・徳沢愛子・寺本まち子の四選考委員によって十月二十九日に選考委員会が催された結果、一次・二次選考を経て、次の十六篇が各賞に選ばれた。選考委員長は「今回の課題に果敢に挑戦下さった応募作は、入射角こそ異なるものの得難い経験と思惟の下に、生命の愛しみにあふれた前向きな姿を顕していた。そのどの一篇も不可欠に思え、コンクルの意味を失いかけたほどだ」と総括した。

選考会に立ち合った向川裕章実行委員長は、得難い詩の数々に委員の方々は何度も読み返し、議論をぶつけ例年になく長時間にわたる熱のこもった討論の末の決定だった。是非作品集を手にとって、作者の思いをくみ取って欲しいと話している。

第九回の課題は「食」、締切は6月30日

二〇二二年度総会に於いて第九回かなざわ現代詩コンクルの実施が承認され、六月理事会に於いて課題詩部門のテーマは、ポストコロナのあらゆるシーンを想定して「食」と決定した。

受賞作品集刊行

第八回現代詩コンクルの総評、選評などを掲載した小冊子を刊行(一冊五百円)致しました。希望の方は事務局までお申し込み下さい。



最優秀賞

未踏の朝

井本 一郎 (埼玉県越谷市)

優秀賞

落下傘

花井 満 (鳥取県鳥取市)

新世界

細島 裕次 (栃木県真岡市)

異形の秋(パークサイドホテル異聞)

中 利夫 (石川県金沢市)

入賞

県境(コロナの壁を越えていく)

手紙

南雲 和代 (東京都北区)

足音

戸田 和樹 (京都府京都市)

コロナ禍の贖罪

矢代 レイ (秋田県秋田市)

小さな箱

貝塚津音魚 (栃木県大田原市)

ウェブ帰省

石井 夏子 (石川県金沢市)

佳作

ゼロ

滝本めぐみ (福井県小浜市)

新たな日常

向川 裕章 (石川県金沢市)

物語

ルリアアひろこ (岩手県花巻市)

消却

藪本 泰子 (山口県宇部市)

持久戦

林 まゆ美 (石川県小松市)

80才のバラード

波佐間嘉子 (石川県小松市)

遠藤 朝子 (石川県金沢市)

第九回かなざわ現代詩コンクール

作品集要項

- ①部門 課題・自由題いずれかの部門を選択
- ②応募資格 高校生以上(居住・出身地不問)
- ③執筆要領 作品は一人一篇、未発表作品に限る(他のコンクルとの重複応募はお断り)
- ④A4版縦書きで1行30字以内、35行まで。(タイトルは行数に含めない、空白行は含む)
- ⑤原稿右上隅に部門別を明記してください。
- ⑥別紙に、タイトル・氏名・郵便番号・住所・電話番号・原稿総枚数を明記すること(原稿にはタイトルのみ)。
- ⑦宛先・締切 作品は2021年9月30日までに左記コンクル事務局までお送りください。同時にコンクル参加料として2000円を最寄の郵便局より左記口座に振込む。
- ⑧口座番号 007801214064
- ⑨加入者名 石川詩人会
- ⑩選考 石川詩人会で組織する選考委員会により、課題の部・自由題の部それぞれから入賞作品として数篇を選定し、最優秀作品一篇を「かなざわ現代詩賞」とします。
- ⑪発表・表彰 本年11月ころに選考結果を応募者全員に通知し、すべての入賞作品に賞状・記念品を贈ります。
- ⑫受賞作品集 受賞作品および選評を刊行し、応募者全員に配布します。

作品送付先 石川詩人会コンクル事務局
〒920-0027
金沢市駅西新町1-10-9 向川裕章方
TEL/FAX 076-232-2806
携帯 090-1317-2130

受賞感想

最優秀賞「未踏の朝」

御礼のことば

井本 一郎



自然災害が続き、地形はもとより、人の心まで軋み続けているように思えてなりません。今度はCOVID-19が上陸、共に手を取り合って元の姿へ、そんな呼びかけももう通じず、人と人が引き裂かれていきはしないか、不安です。いつそ、元には戻れない、を新前提に、過敏な外部アンテナから内なるセンサーに切り替えてあたりを眺め直してみると、綺麗は不潔、新しいは古い、美しいは醜い、薄々気づいてはいたものの、当然だと思っていたものが違う姿をあらわし出しました。無秩序に散らばる、極私的な発見の色々も、詩にすぎたところ、こんな形を授かりました。いまは、伝わった、という結果に救われ、感動しています。ありがとうございます。

優秀賞「落下傘」

作品「落下傘」について

花井 満

テレビ画面に映る通勤時間の駅の出札口は、津波にも似るマスク集団の怒涛、恐怖の衝撃。かつての軍国少年には脳裏へ突然、見たわけではない開戦直後のパレンバンに降下する落下傘部隊が浮きました。あまりにも酷似、下界で待ち構える銃砲火の中へ下りる一団の悲壮感です。あのシーンが、金子光晴の『落下傘』創作の原点でありましょう。しかしながら、詩人の不安は、警告ではありますが、今何が必要であるのかを示されません。それは時代への反抗の限界でありましょうか。第一次世界大戦後の国際連盟提唱には、人

類危機回避への切望がありました。現在なおも大国を指すのみの蒙昧が止みません。あえて、詩語にせず、最後の一行で絶叫したのでした。

優秀賞「新世界」

どんな鳥も

細島裕次



いわゆる震災詩の豊作に比べて、コロナ詩は、すこぶる不作為である。もし津波や瓦礫は目に見えるやすいから書きやすい、コロナは目に見えづらいから描けない、ということであれば、それは、想像力の貧困以外の何者でもない。寺山修司は、「どんな鳥も想像力より高く飛べる鳥はいない。」という名言を残した。コロナを課題とした、今回のコンクルは、閉塞した(Pure poorに通じる)詩の状況に一石を投じるものであったことは間違いない。

優秀賞「異形の秋(パークサイドホテル異聞)」

ホテルの行方

中 利夫

長年。ホテルに勤めてきました。定年退職後の今も、アルバイトとして多少の関わりを持っています。今回の課題「新たな日常」コロナウイルス禍を踏まえて「を考えたとき、コロナの及ぼす影響がホテルを含む観光飲食産業へ与えたダメージは計り知れないものと言わざるを得ません。ホテルに関わってきた者として何か形に残しておきたいと考え、この作品を書いて見ました。運よく受賞の報せを受けましたが、まだまだ未熟で、言い足りない点もたくさんあります。この先、コロナが収束するのか、しないのか、まだまだ不明ですがこれからはホテルの行方を見守り、ホテルを題材に書き続けたいと考えています。

詩 滴

作品を書くのは孤独な作業だが、複数の仲間と一篇を共作するという試みが稀にある。その場合に最も困難なのは、作品がバラバラな断片の集積になってしまう、テーマもリズムも、ある情緒的な持続も読者に与えることが困難になる点だ。それを誰かが、あるいは全員が合議により修正して、何らかの統一感が作品に備わらないと、できたという実感が無い。バラバラな積み木の廃墟のような言葉のオブジェも、それはそれでいいかもしれないが、とにかく書くことが密室での孤独な作業になりやすいのは、書く主体の統一性に見合った統一性を、作品に投影させたいからではないか。しかし一方、孤独に生きているつもりでも、実は誰一人、単独では生きられない存在であることは自明だ。無数の他者たちとの関係の中で、共感し、反発し、模倣し、影響をこうむりながら、無意識のうちに自己を形成して行く。孤独な詩人たちも、独特の嗅覚を働かせて仲間を形成する。同人誌を出そう、という話になる。それが今度は、一挙に広い世界の視線に晒されるのだ。どうなることやら不安。(深)

★お詫びと訂正

石川詩人会会報49号(2020年7月)の6ページ下段に掲載の「第七回かなざわ現代詩コンクル 受賞感想」武西良和氏の文中(7-8行目)、「昨年はブドウが黒星病や赤星病等にかかり、ほぼ全滅した。」は「昨年はブドウが黒星病に、ナシが黒星病や赤星病にかかり、ほぼ全滅した」が本来です。誤認訂正の上、お詫び申し上げます。(事務局)

会報「いしかわ詩人」50号記念

困難な時代を乗り越えて

会長 米村 晋

石川詩人会では、今回、会報「いしかわ詩人」五〇号を刊行する運びとなりました。五〇号の刊行とは、石川詩人会の創設以来、二四年を経たこととなります。創設当時の理事一二人のうち、五名の皆さんが現在も理事あるいは会員として本会の運営に携わっております。本会は、文学団体としては長い歴史を存続していますが、これは会員各位の努力の賜といえます。それにもまして、関係団体や一般読者の皆さまのご支援とご協力のお陰であることを改めて御礼申し上げます。



1997年3月30日 石川詩人会結成式 於：東急ホテル 顔合わせした新理事
前列左から井崎外枝子、中村齊、堀内助三郎、松原敏、砂川公子
後列左から伊名康子、高橋はる美、新田泰久、地野和弘、宮本善一

思い起こせば、私が石川詩人会に入会したのは二〇〇三年であり、会員は六二名、会報は一六号が発行されてきました。会員の皆さんも若く旺盛な文学活動をしており、二〇〇三年も「石川詩人祭」を実施していました。おりしも香林坊の映画館街が廃業になっていたのでその一館を借り切り、「石川詩人祭」と銘打って『詩の朗読と音楽とパフォーマンス』のコラボレーションを演出しました。当日街中を行き交う一般市民も勧誘、『祭の場』を設定して大いに盛り上がりました。その後も、毎年度、石川詩人会の事業計画を立案し外部の講師なども招聘して種々の講演会や詩塾などを催し、詩作のレベルアップと文学的知見の養成に力をそそぎました。

現在は、コロナウイルスにより、会としての事業活動も円滑にはできない状況にあります。しかし、私達石川詩人会会員は、これに挫けることなく創作活動に励み、作品のレベルアップを図り、本会の発展に寄与したいと考えております。

▼創刊のころ

砂川公子

会報の五〇号は、創立時の緊張を改めて呼び起す。一九九七年三月三〇日の結成式は、厳しい自己研鑽を覚悟した新鮮な高揚感に満ちていた。私は「テレホンポエム」一二年の人脈をかわれ、半年前から詩人会の呼びかけ人名簿の作成を担っていたので、その責任の尾のようなものを今だに引き摺り続けている。

戦前戦後、石川の詩人会組織は四度ほど立ち上がり二年と続かない経緯がある。この時、創立の指揮にあ



定形郵便に納まる手のひらサイズの会報は軽くて重かった

たる松原敏氏は質量ともに充実するには短命もいとわれない鬼才のエンターティナーだったが、一方で理事長として着実に事業の四本柱を打ち立て、二年クルールの堅固な組織作りを図っていた。総会と記念講演会、隔年の石川詩人祭又はアンソロジーの刊行、詩の研究会そして、年に二回の会報の発行である。現在の現代詩コンクールの実施は五年目から今日に至っている。会員数は最も多い時で現在の二倍だった。

初期の頃の講師の多才な顔ぶれを思い返すと、自分の言語が社会や人間の問題に係わることができるとかどうかが「言葉の組織を洗いなおす」提言を下された詩人の荒川洋治氏、フランス人で日本文学専攻国際交流員の「詩・その音楽、そのイメージ」を発信下されたオリバン・アバンスール氏。金沢出身の先輩詩人「詩人は今書いたばかりの言葉にさえ手錠をかける」と言葉の厳しい検証を訴えられたやまもとあきこ氏、高知の詩人で「風土と詩の今日的課題を発信」し促した片岡文雄氏、またジャンルを超えたところではイタリア美術史の第一人者「ミケランジェロの彫刻と詩」を示し下さった宮下孝晴氏。会場となる「場」は質的向上を目指す重要な要素であった。実に精鋭で、肩甲骨に翼が生えんばかりの刺激空間を呈していた。

そのころの私はささやかに会場の雑用や会報を手伝っていた。今も一炊の夢のごとき日々が胸の内にある。

▼新しい次世代交代の創造へ

酒井恵三

「いしかわ詩人」発刊50号を迎えることができ、本当におめでとうございます。昨今のコロナ禍で、芸術やエンターテインメントの世界に激震が走っており、文学、現代詩の分野もその例外ではありません。しかし、歴史上の疫病の流行が結果として次の時代の新しい文化の創造に寄与したことが多々あったことを思うと、コロナ以後の現代詩は実に豊饒なものになるのではないかと期待し、また祈ってやみません。

▼温かい人の輪の中で

皆元美和子

会報50号おめでとうございます。閉じこもりがちな私にとって、会報は皆様お一人お一人にお会いしているような、また温かい輪の中へ招じいれられているよ

▼詩作の「独標」を目指して

山口修治

夜間大学生の時に兄が結婚することになり、祝い品を買うお金がなかったことと、そのころに歌声と出会っていたこともあり、「今日から僕は」という曲を創作し歌って、思いのほか義姉の親族から拍手喝采を受け、作詞・作曲の期間が長かったせいか、要介護高齢者のみなさんと関わるせいか、それとも僕の性格か、詩作もどうしてもストレートに伝える表現となってしまう。

この間「詩とは行間に言いたいことを書くのですよ

▼四〇周年を迎えた本棚

寺本まち子

「会報」が50号となる。ちなみに詩誌「独標」は昨冬、40周年を迎えた。共に感慨深い。本棚を整理している。大切な本だけを残そうと思うことに無理があるのか少しもはかどらない。頂いた詩集、歌集、小説、美術全集、宗教書、図鑑、辞典、絵本にコミック、新聞の切り抜き……。しかし、それらに教示され、励まされ、導かれてここまで歩んできたではないか。捨てられない。で、ザックリ考え直す。本の内容について覚えていた事はいづれ忘れる。忘れられないことは体が憶えている。振り返らずとも直感を信じて選別すればいい。で、数日後。本棚の前に座って一冊ずつ読み返している私がいる。

▼コンクール応募が機縁に

石川あい

いつの時だったか「独標」の仲間に石川詩人会へ入らないのか？と問われ、これ以上忙しい思いはしたくない、第一自分の書く詩は低レベルで……といったことを思い出す。ある時励まされながら、コンクールに応募した。この事がきっかけで入会。会計監査のお役を頂いてから会長さんとお話できるのも楽しみとなっていた。会報は、参加できなかった研究会のことなど学べ、嬉しく読んでいた。しかし詩は一向にうまくならない。



発足50周年記念石川詩人祭 ―きらめくポエトの世界
2001年 於 金沢市民芸術村 参加者100名
第1部 朗読
第2部 ことばのワークショップ
第3部 一行詩の公開創作
ひとりよがりや自閉癖が多い詩人の集団としては、あつばれな外交的活動というべきだろう。(詩の月評にて内田洋氏)

▼事業の継続とその意義

石川詩人会に所属して何年が過ぎただろう。積極的に参加しているとは言えず申し訳ないと思うばかりである。ふと思うのは、毎年毎年の事業の継続である。課題詩もアンソロジーも研究会も定番である。なかでも、会報の発行は会員が少なくなりつつある今、いよいよ大切な事業となる。記録以外にその意義は大きい。会員のそれぞれが現在で詩人でも催されていること

中谷泰士



【いしかわ詩人 第2集】合評会 2000年8月26日・27日実施 於 金沢市長町研修館
初日は内田洋、上田正行各金沢大学教授。短歌の喜多昭夫氏。2日目は小林輝治、野島清治各氏が出席。写真は2日目。
新田泰久氏は「作品は歴史をテーマにしたものから個人の内面を取り上げたものまで多彩で、石川詩人の多様性を示せた」と語っている。

が何か、を知ることがは会員が詩とつながる道筋だと考えさせられる。

▼まだまだ若輩

向川裕章

私が石川詩人会の存在を知ったのは、今から二十年前、現会員の小池田薫さんの詩集を紹介した新聞記事を目にしたのがきっかけであった。以前から音楽の歌詞に興味があり、詩など書いたこともなかったが、冷やかし程度で事務局に問い合わせをしたところ、ぜひ入会をということに今を迎えている。当時の自らの作品を読み返すと赤面ものだ(今もそう上達したわけではないが)。私も今年で前半世紀。世間的には高齢ゾーンに足を踏み入れているが、当会ではまだまだ若輩。まだまだ頑張らねば!

▼会報という紙媒体の力

中野 徹

石川詩人会に入会し、はや7年になります。入会した時、会報は37号でした。初めて読んだとき、内容の濃さ、きめの細かさに驚き、私にはこの編集の担当は到底無理だと感じたことを覚えています。それゆえ、編集に関しては尻込みをし、何の役にも立ちませんでした。これを機に、何らかの役に立てればと思います。

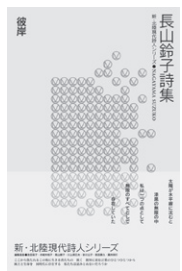
今期より、事務局の向川さんを中心に、石川詩人会のホームページが立ち上がります。会報との兼ね合いも微妙なものとなるかとおもいますが、両立するように力を尽くしたいと思います。しかし、詩の世界に発信するものとして、会報という紙の媒体は、大きな力があると感じます。今後、長く続くよう会員の一人として協力していきたいと思えます。

会員の 新刊書紹介

北陸現代詩人シリーズ
長山鈴子詩集「彼岸」

能登印刷出版部
2021年4月発行

◆31篇収録。詩歴の長い作者だが、あとがきによると病いを得て大手術の後、一種の啓示を得たようだ。「宇宙の核は愛」と締めくくる。



広岡守穂編著「社会の中の文学」

中央大学出版部
2021年7月発行

◆中央大学政策文化総合研究所プロジェクト「東アジアにおける文学の社会的役割についての比較研究」の成果。大著の第一部第一章「文学が映し出す大衆の政治観」が広岡さんの論考。



北陸現代詩人シリーズ
中野徹詩集「雲のかたち」

能登印刷出版部
2021年7月発行

◆自分自身、ホテル、家族を題材とした3章からなる初めての詩集。過去へのすべてに対し「優しさ」という視点で書き綴っている。



鑑賞詩 2

卒業式

徳沢愛子

いつんまにやら
あんさはいつちよまいになった
いつちよらのせびろをきて
ちよつこし ひげのはえたあごに
がくちよのしゆくじ
きいとるよがおに
ひがさしこみ
めにひかりがとまる
どっか えいちのみなもどから
とどいたらしい ひかり

もう あんさは
わてからすだつてしもた
もう しゃかいのこ
にほんのこ
せかいのこ
うちゅうのこ
しきじよのすみつこで
ははおやのわては
とうめいにんげんになっていく
うすあおいもや まといながら

【解説】

アンソロジー「いしかわ詩人 十二集(二〇二二)」所収。石川詩人会員、詩誌「笛」同人。詩集「咲うていくまいか」(二〇二〇)で中日詩賞奨励賞受賞。金沢方言で詠うこと詩のことは作者の体質や肉感が滲透した。大切なのは実感を重んじることだ。(編集部)

中日詩賞奨励賞受賞作
徳沢愛子詩集「咲うていくまいか」を読む

方言にあふれる愛のまなざし

徳沢愛子さんのこの度の方言詩集が、とりわけ金沢の土地を離れたところで高く評価されたことに大きな意味と深い感慨を覚える。

彼女は中学二年生の頃から詩を書き始め、これまでに十二冊の詩集があり、その六冊までが方言詩集である。一九八〇年代、金沢の名利天徳院で詩の朗読会を開き、特に方言詩に大きな笑いと喝采を浴び人々の心を掴んだことが契機だと聞いている。方言の研究者で金沢大学の加藤和夫教授によれば、明治後半から標準語教育のために矯正の対象とされた方言が、戦後四十年経ちテレビの普及による衰退の危機感から見直しが迫られた頃とこの時期が重なるという。「詩で蘇る方言の魅力と資料的価値」でも教授は徳沢さんの詩を高く評価する一人だ。

さてこれらの詩の魅力は方言という(話し言葉)であること一方で、詩の言葉が身近な生活と密着していることを抜きに語れないだろう。「卒業式」の詩では、五人の男子を立派に育てあげ、その巣立ちの姿に母としての感慨と一抹の寂寥感を、また本作中の「おじいちゃんのもん」に代表される男性の象徴を(麦茶の道)(味噌汁の通り道)と表現する(人間味あふれる愛のまなざし)に彼女の筆が通るとされる。ここでは七十五篇もの詩を収録して、その多くを短詩によって、きりつと絞った果実のような詩の濃厚なエッセンスとして味わうことができる。(砂川公子)

石川詩人会のホームページに
詩を発表しよう

詩は舟に乗って人生の旅に出るようなもの旅での出会いや経験こそ、あなたが人生の危機にあったとき希望と元気ををもたらしてくれるのです

会長による呼びかけのメッセージも熱く、石川詩人会公式ホームページが立ち上がりました。当会の活動全般を会員のみならず一般の方にも広く開かれたさらなる交流の窓口として開設しました。これからまだまだ内容を充実していく必要がありますが、今後は現代詩コンクルの受賞作品や講評、アンソロジーの会員作品、会の活動やイベントのご案内のほか、会員皆さまからの作品を随時募集・掲載できる「詩のポスト」コーナーも設けてまいります。是非ともご参加下さい。なおパソコンに詳しい会員向けアドバイザーを会員の中から求めています。ご協力の程お願いいたします。



「詩のポスト」の掲載要領は一行二〇字、タイトル・氏名を含めて二〇行以内とします。詳細はホームページ内の「事務局だより」をご覧ください。
https://ishikawa-sjinkai.com/
PCやスマホでは「石川詩人会」で検索